

栄養食事管理に係わる医療従事者の方へ

新型コロナウイルス感染症は、世界的に急激な勢いで感染が拡大している。WHO はじめ我が国においても緊急事態宣言が発令され各国での対策が取られているが、現時点では収束の目途はなく長期的な対応が必須と考えられる。今日、感染予防のみならず休校や在宅ワークが進むなか栄養管理上のさまざまな問題が生じつつあり、その解決や医療福祉機関における新たな視点での栄養管理体制の確立が急務である。これらの状況を踏まえた栄養食事管理の適切な実行と継続に向け、緊急提言する。

<コロナ禍蔓延における栄養食事管理上の提言>

正しい新型コロナウイルス感染予防策を徹底したうえで、

提言 1. 栄養食事指導の継続的な実施を図りましょう。

提言 2. 持続可能な食事療養管理のため、あらゆる事態への備えをしましょう。

提言 3. 栄養と食の専門職として、子供から大人まで実施可能な食支援をしましょう。

提言 4. 新型コロナウイルス感染患者の低栄養予防策を実施しましょう。

(詳細)

正しい新型コロナウイルス感染予防策を徹底したうえで、

<提言 1> 栄養食事指導の継続的な実施を図りましょう。

→高齢者だけでなく休校や在宅ワークなど若年者においても外出自粛に伴い身体活動量が減少し、また療養指導の機会が減ることで血糖や脂質、血圧の管理が難しくなるなど、生活習慣病の悪化が危惧されます。日常診療のなかで栄養指導の必要性がある患者に対しては、体重や血圧、検査値に応じて栄養食事指導の内容を調整し、その継続により病態の改善を図りましょう。2020年度診療報酬改定では、新たに情報通信機器を活用したオンラインでの遠隔栄養食事指導料の算定が新設されています。栄養指導室は「3密」の環境になりやすいことから、指導環境に配慮のうえで実施しましょう。

<提言 2> 持続可能な食事療養管理のため、あらゆる事態への備えをしましょう。

→冷凍食品など輸入食品を主とした食材不足が生じる一方、調理従事者の不足に伴った食事療養管理に支障を来す事例を認めます。すべての調理従事者に対しても、正しい感染予防策の教育が必要です。医療福祉施設における災害対応食の備蓄は短期間に限られることから、持続可能で適切な食事療養管理のための備えを事前に検討しておきましょう。

<提言 3> 栄養と食の専門職として、子供から大人まで実施可能な食支援をしましょう。

→社会情勢がめまぐるしく変化するなかで、休校の子供たちの食事環境は給食から自宅での食生活となり、一部ではジャンクフードが中心になっています。また、在宅ワークとなった家族や同居者の食生活に変化が生じ、基礎疾患が悪化するケースも増えています。外出自粛が続くなか、栄養と食の専門職として子供たちと家族の絆となる食生活に着目し、中食の利用も鑑みた実施可能な食事プランを探索し、栄養バランスのとれた食支援をしましょう。

<提言 4> 新型コロナウイルス感染患者の低栄養対策を実施しましょう。

→多くの感染症では、たんぱく異化亢進を認め必要栄養量が増加します。さらに新型コロナウイルス感染症では、味覚異常やメンタルヘルス不調に伴う栄養摂取量の低下および高度体重減少を認めるなど、低栄養を呈する患者が少なくありません。感染症の治療が奏効するよう、早期から低栄養対策を実施しましょう。主治医、管理栄養士をはじめ多職種チームで連携し、栄養サポート体制を構築するなど長期的に運用可能な低栄養対策が重要です。

2020年5月吉日

一般社団法人 日本病態栄養学会

一般社団法人 日本臨床栄養学会